

< 認知症対応型共同生活介護用

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670300971
法人名	有限会社 なごみ福祉会
事業所名	グループホーム 青い鳥
訪問調査日	平成 20 年 10 月 6 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 1 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4670300971
法人名	有限会社 なごみ福祉会
事業所名	グループホーム 青い鳥
所在地	鹿児島県鹿屋市古江町796番地1 (電話) 0994 - 46 - 3056

評価機関名	特定非営利法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成20年10月6日 評価確定日 平成20年12月1日

【情報提供票より】平成20年8月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 1月 5日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	11 人 常勤 6 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 7.9

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り 1階建ての 階 ~ 1階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	9,000円(水道光熱費)	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	250 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8 月 28 日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	6 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	76 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	井ノ上病院 まつもと歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム青い鳥は、施設長が病気の親を看ながら、子育てとの両立が困難であった経験から、自分のような思いで暮らしているご家族の助けができればとの熱い思いで平成18年1月に開設された。ホームの畑で作った季節の野菜と近くの漁協で水揚げされた新鮮な魚を食材にしてつくる料理は、入居者の楽しみになっている。又、職員と入居者全員で、毎日、リハビリ体操を真剣に取り組み、筋力低下を予防し、事業所内では、車椅子をできるだけ使用しない生活の支援は、事業所の特徴である。職員は家庭的な雰囲気の中で「入居者一人ひとりが主人公」という理念の実現に向けて取り組みをしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前年度外部評価の改善課題は6項目あり、改善項目に前向きに取り組みクリアしているが、2項目については一部課題が残る。1.「運営推進会議に外部評価の内容の報告と改善経過のモニター役としての活用」については外部評価の結果報告のみで終わっている。2.職員を育てる取り組みについて外部研修が主体であったが、今年度は内部研修の年間計画を前向きに実施している。しかし非常勤職員の参加も望みたい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況は、職員は2~3項目について取り組みに参加しているだけである。職員一人ひとりの日頃のケアに対する振り返りの機会と捉え全員で取り組むことを期待します。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議では入居者の現況報告、行事活動報告、その他質疑、アドバイス、意見など出されそれらはサービスの向上に活かされている。前年度の外部評価の結果を運営推進会議にて報告されているが、改善点についての改善経過報告はされていない。外部評価については、モニター役としての活用がなされていない。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の意見、苦情、不満、相談を聞く場として年2回家族会を開催しているが意見はなく、来訪時や電話での要望、相談がある。伝達ノートに書きとめ、職員が共有し、その都度職員と話し合い運営に反映させている。直接言えない場合でも、行政機関その他の苦情受付窓口機関に話せるように重要事項に連絡先を明示している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の小学校と運動会、学習発表会の見学、小学生がふれあい目的の学習でホームへ訪問など交流している。その他古江地区の人に参加を呼びかけて、ホーム内で一緒にレクリエーション・体操・昼食を行う 交流会を開催するなど地域との交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立当初に、家庭的な環境の中で入居者を主体とした、ホーム独自の理念をつくりあげている。		グループホームが地域密着型サービスに移行した状況の変化に相応しい理念に、見直されることを望みます。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議において、入居者一人ひとりに理念にそった取り組みができていないか確認を行い理念の共有を図っている。ホーム内に理念を掲示し、管理者と職員は常に理念を意識しながら実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小学校と、運動会・学習発表会の見学・小学生の訪問など交流がなされている。古江地区の人に、参加を呼び掛けホーム内で一緒に体操、レクリエーション、昼食など行う交流会を開催するなど地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の作成にあたり職員には2～3項目について意見を聞いたが、殆ど施設長と管理者で評価に取り組んでいる。前年度の外部評価の改善課題は6項目であったが4項目については改善され、2項目については一部改善課題が残っている。		自己評価の意義を理解され職員全員が参加して作成に取り組まれることを望みます。外部評価の改善課題については改善の経過を記録され、運営推進会議でも、経過報告して、出席者の意見を頂き、改善に取り組むことを望みます。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催は定期的に行われている。会議は入居者の現況報告、行事活動報告、その他質疑、アドバイス、意見、前年度の外部評価の結果報告など話し合われている。会議でのアドバイスや意見はサービスの向上に活かしている。		昨年度の外部評価で改善とされた(自己評価外部評価の報告と改善経過のモニターとして運営推進会議を活用すること)事項については報告はされているが、モニター役の機能がなされて無く今年度も引き続き活用することを望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村には事故報告をしたり、提出書類の書き方の指導を受けたり、運営推進会議の報告を行っている。		市町村には介護現場の状況を報告し、運営上の問題点が生じた場合の相談や指導をうけるなど、協働関係を築かれることを期待します
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	遠方のご家族には、毎月文書にて暮らしぶりや金銭出納帳のコピー、職員の異動等を報告している。近くのご家族には、面会時に報告をしている。緊急時の報告は電話で行い、3か月に1回ホームだよりを作成し配布している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見、苦情、不満を聞く場として、家族会を年2回開催しているがあまり意見はなく、ご家族の来訪時や電話で要望や相談がある。要望・相談は、伝達ノートにて共有し、その都度職員と話し合い、運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の離職を防ぐ為、職員の意向を聞き、労働環境を整えるように努めている。利用者のダメージを防ぐため、新規採用者が早く馴染むよう入居者とかかわる時間を十分に持てるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者はホーム内の年間研修計画を立て2か月に1回勉強会を開催している。資格取得を目指す職員など段階に応じた外部研修に参加させたり、研修機会を増やす努力をし、職員の育成を図っている。しかし、非常勤職員の勉強会・職員会議の参加がなされていない。		常勤者と非常勤職員と区別することなく、勉強会・職員会議に非常勤職員も参加し、知識や意識の向上を図ることを望みます。。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は大隅地区グループホーム連絡協議会や西部地域包括支援センター主催研修会に参加している。他の職員は地域のグループホームに研修機会を設け、新しい知識やヒントを習得し、研修報告を行いサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、家族や本人、担当のケアマネージャーなどが見学され、本人が納得してから入居している。本人が病院に入院している場合は、管理者が本人と面談をすることで馴染みの関係をつくり、家族や病院の担当者の説得で、納得した上でサービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する中で、一方的な関わりにならないように、本人の得意とする分野(皿洗い、掃除、片付け、洗濯物たたみ、畑仕事)など、もてる力を発揮していただき、職員は感謝の言葉かけをしながら共に支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時は、家族や本人から今までの生活における暮らし方や今後の暮らし方の希望、意向を聞いている。入居後は職員が日々の生活の中での言葉や様子から意向の把握に努め、職員間で検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成にあたり、本人や家族の希望を踏まえたうえで、職員から本人の自立の為になるように、具体的な意見を聞き、それらを活かしながら、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の職員会議で、一人ひとりのケアプランの課題をあげて見直しの話し合いをしている。変化が生じた場合は、本人、ご家族に確認の上、現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて病院受診が必要な場合は支援している。入院になった場合、医療機関を訪ねたり電話したり情報交換し、早期退院に向けての支援もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望されるかかりつけ医に受診し、ホームとかかりつけ医との必要な情報交換がなされ、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしては、終末ケアは行わないことを了解のもとに入所を受け入れている。重度化した場合、受け入れ先が決定するまでは、家族との話し合いで医療が受けられる業者と連携を図り対応している。		一人ひとりの重度化や緊急時にそなえた対応は、職員全員が、対応できるように方針の統一を図ることを望みます。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は職員の言葉かけや対応が、誇りやプライバシーを損ねていないか注意して見守りをしている。個人情報に関わる書類も事務所において適切に管理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れの中で、入居者の希望(通院、寺詣り、散歩、買物、入浴、ドライブ、美容院、歌、など)に応じ、本人のペースを大切にして支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームは海の幸に恵まれており、鮮魚やホームの菜園でできた野菜を使い、豊富な食材で入居者には楽しみなメニューである。食事の準備、片付けまで参加できることは一緒に行い、唱歌をバックミュージックにして、楽しんで食事ができる支援をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴日を設け、入居者の希望にそって2日に1回は入浴するようにしている。本人の希望があれば連日であっても対応している。季節によって夏は午前中、冬は午後からと入浴時間を設定し利用者の希望を酌みながら対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の得意な分野(味噌作り、洗濯物たたみ、食事の準備、掃除など)で、気持ちよくできる役割を張り合いになるよう工夫している。ドライブ、散歩、歌、リハビリ体操、買物、三味線弾きなど楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、近くのドラッグストアへの買い物、周辺への散歩は日常的に出かけている。出たがらない人もいるが、職員が誘って出かけるようにしている。季節に応じた野外での行事も楽しめるよう支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関の鍵は、かけないケアに取り組んでいる。外に出かける傾向の入居者もあり、職員は見守りに注意し、さりげなく付き添って出かけている。万一の場合を想定して近くの交番にも協力をお願いしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害訓練の年間計画を作成して、毎月何らかの形で訓練を行っている。(夜間想定火災、昼間の火災を想定した避難訓練、火災、地震、水害時のシュミレーション等)年1回は消防署立会で避難訓練を実施し、指導を受けている。		避難訓練の実施には、地域の方々の参加を呼びかけ、日頃より協力が得られる体制を作ることを望みます。災害時に備え水、食料品、その他の必需品を検討され準備されることを望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量については、記録され1日分の把握がなされており、入居者の健康状態を知る上で参考にしている。献立については鹿屋保健相談センターに書類を持ち込んで相談し、指導を待つ段階である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、居間から人の動きが見渡しやすくなっており、職員、入居者共に安心感がある。洗面台には季節のコスモスの花が生けられ、手を差し出せば自動給水になっている。壁の飾りつけも入居者や家族が楽しめる写真を張るなど工夫がされている。ソファは、それぞれが過ごしやすいように配置の工夫がしてある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットとクローゼットはホーム備え付けで、その他の備品は、家族に自宅から使い慣れた物や本人が大切にされていた品物（目覚まし時計、タンス、杖、仏壇、位牌、アルバム、手紙、等）を持ち込んでもらい本人が居心地よく過ごせる部屋にしている。		